函館高専

学校だより　第215号
～2023年3月号～

【目 次】

卒業・修了される皆さんへ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 1
卒業生へのメッセージ＆卒業生からのメッセージ ・・・・・・・・ p. 2
専攻科修了生へのメッセージ＆専攻科修了生からのメッセージ ・ p. 8
留学生からのメッセージ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.10
学校行事等について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.12
国際交流について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.23
春潮寮通信 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.25
国際寮通信 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.26
卒業予定者の進路先について・修了予定者の進路先について ・・ p.27
退職される先生から ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.28
新任職員の紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.29
函館高専地域連携協力会から ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.30

独立行政法人国立高等専門学校機構
函 館 工 業 高 等 専 門 学 校
National Institute of Technology (KOSEN), Hakodate College

卒業・修了される皆さんへ

本科卒業の皆さん、専攻科修了の皆さん、卒業・修了おめでとうございます。本校の全教職員とともに、心よりお祝い申し上げます。また、保護者の皆様にも、心からお慶び申し上げます。

さて、卒業・修了される皆さん、振り返ってみて、皆さんの函館高専時代はいかがでしたか。

新型コロナウイルス感染症という全世界を巻き込んだ未曽有の危機に突如見舞われ、これまでの常識が大きく覆された中での学校生活でした。

さらには、コロナ禍から回復しつつあった中で発生したウクライナ危機は、世界のエネルギーや食糧問題を引き起こしました。本校においても、エネルギー価格の高騰から皆さんに節電をお願いするなどの対応をとらせて頂きました。こうしたさまざまな制限のあった学校生活において、皆さんの理解と協力が得られましたことにあらためて心から感謝申し上げます。

1980 年代から主要国がグローバル化の推進に向けてお互いに協力し合ってきましたが、コロナとウクライナ危機によってグローバルな協力体制は弱体化に向かっています。エネルギー、食料、人口増加、高齢化社会等、これら大きな課題にどう向き合っていくのか、今、対応が求められています。

これからの世界の課題に取り組むために、アイデアを共有し、新しい技術を開発し、世界の人々と連携していく必要があります。そのためには、技術力と人間力が必要です。

皆さんは、函館高専でその基盤となる工学の専門知識や実践的技術を学び、身に付けました。そして、共に学んできた仲間との深い友情、教職員との信頼関係、これら様々な経験は、皆さんの人間力を高めてきました。専門知識・技術については、これからも自身で学び研鑽を続けてください。主体的な学びに限界はありません。また、人間力も高めることができるよう努力を続けてください。

最後に、エド・フォサム博士の言葉を皆さんに送ります。

「強さ」とは、自分ひとりだけで強くあれ、という事は意味しない。
他の人々と共にあり、その支えによって、自分が強くなる、そういう強さもある。（エド・フォサム）

皆さんもこれまで、自分一人の強さだけではなく、家族、友だち、先生等の支えがあったかと思います。卒業して社会に出ていくこれからは、今後、出会うだろう多様な価値観を持つ人々によって、さらに人間力を高め、力を合わせ、困難を乗り越えていけることを期待しています。

戸倉の丘からいつも応援しています。

函館工業高等専門学校長　　阿　部　　恵

「卒業生へのメッセージ＆卒業生からのメッセージ」

『さらなる上のレイヤーへ』

教務主事　生産システム工学科電気電子コース　教授　柳谷　俊一

工業高等専門学校の制度は普通高校に比べると特殊であり、中学卒業してすぐの頃は戸惑うことも多かったのではないでしょうか。それでも、皆さんはその環境に適応し、「高専生」として必要な知識・スキルを身につけて本科及び専攻科のカリキュラムをすべてクリアし、無事卒業・修了する運びとなりました。これからはそれぞれが就職・進学と異なる道を歩むわけですが、本校で学んだ経験は社会に出てから大いに役に立つことでしょう。卒業・修了は一つの終わりではありますが、新しいスタートのはじまりです。これからまた新たな学びが必要になります。どこかで聞いたことがあるかと思いますが、これからの学びの際に次の考え方をぜひ実践してください。

「魚を与えるのではなく、釣り方を教えよ」

お腹が空いている人に「魚を与える」のではなく、「魚の釣り方を教える」ほうがよいという意味です。魚を与えることは一時的にお腹を満たすだけですが、釣り方を知った人は釣りをして魚を得ることで継続的にお腹を満たすことができるということです。この考えは人に何かを教える場合に使われますが、自分自身が学ぶときにも参考になります。目の前に課題があったときに単に答えを得るのではなく、その答えを導くための方法を学び、身につけることがより大事です。これができるとより多くの課題に対応できるでしょう。それでは、さらに上のレイヤーに行くためにはどうすればよいでしょうか？それは「解決方法を自分自身で編み出すことができるようになる」ことです。「言うは易く行うは難し」と思うかもしれませんが、いつもそのような心構えで物事に対応していれば自ずと成長し、実践できるようになると思います。

さて、コロナ禍において世の中の仕組みの多くが変わり、今後も「新たな価値」が生み出されていきます。身の回りに起こる変化に対して、はじめは忍耐力・受容力が必要です。そして、その後順応していく力が求められます。現在は TV・新聞などの主流メディアの他に SNS など多くの情報源があり、正しい情報だけでなく誤った情報もあります。従来の常識は非常識かもしれません。常識や歴史、さまざまな情報に対して真贋を見極める力が必要です。そして、正しい知識を基に課題解決方法を編み出し、新たな価値を創造する力が求められます。

これからの社会を築くのは皆さんです。皆さんのご活躍を大いに期待します。

『中村君、地球は回っているんだよ。』

第5学年生産システム工学科機械コース担任　中村　尚彦

卒業生や関係する皆様、ご卒業おめでとうございます。

函館高専生としての時間を予想以上に長く感じた人や短く感じた人、あるいは在籍期間が予定より長かった人や短かった人、もっと学生時代を楽しみたかった人や満足した人、まだ学生時代が続く人・・・いろいろな卒業生がいると思いますが、とにかく卒業です。皆さんの学生時代はどうでしたか？平成が令和に代わったことは生活に大した影響がなかったと思いますが、新型コロナウィルスには泣かされた人も多かったのでは？と思います。

さて、ここ最近の学校だよりを見ると、歴代の担任の先生たちは自分の出会った言葉を残していますので、私もあやかって冒頭の言葉を皆様にお伝えします。私の大学院時代の恩師が主に月曜日に発した言葉です。タイパ重視の皆様世代のための言葉のようですが、今の時代、教員が学生にこれを言ったら「パワハラだ」「アカハラだ」と責められること必至の言葉です。ただし資本主義社会はこうだそうです。卒業する皆様、高専時代に見つけた技術や知識を生かして、地球の回転に遅れないエンジニアとして大成してください。

『謝辞』

第5学年生産システム工学科機械コース　佐々木　悠華子

生産システム工学科 機械コースの佐々木悠華子です。この場をお借りして、私の高専生活について少しお話したいと思います。

5S-M は総勢 47 名と校内でも特に人数が多く、各々の個性が強いクラスでした。そのおかげで、特に趣味もなく勉強することにも飽きていた私の生活にも楽しみができ、ここまで諦めることなく真面目に 5 年間を過ごせたと感じています。また、進路の相談を親身に聴いてくださった機械コースの先生方や鳴海先生、創造実験などの無茶なお願いにも応えてくださった技術職員の方々にも本当に感謝しかないです。特に卒業研究は浜研に在籍していたので、浜先生はさぞかし大変だったことでしょう。卒研生一同 BIG LOVE HAMA の気持ちです。

長々と自分の話をしてしまいましたが結局何を伝えたいかというと、「周りを頼ることと感謝の気持ちを忘れないで」ということです。私は、すべての物事において自分の力だけで完結できることはないし、必ずその過程では誰かの努力があると考えています。そのため、自分がお世話になった方には日頃から感謝の気持ちを言葉にして伝えてほしいです。では、長くて意外と短い高専生活を楽しんで。

『思索と経験をめぐって』

第5学年生産システム工学科電気電子コース担任　丸山　珠美

学生の皆様、そしてこれまで学生を温かく見守り、支えてくださった保護者の皆様、ご卒業本当におめでとうございます。私が、このクラスの担任になった 2020 年 4 月は、ちょうどコロナ禍の影響によって入学式は中止となり、授業はかつて経験したことのないオンラインとなったときでした。コロナの影響は、現在に至るまで続き、これまでの電気電子コースの学生が当たり前のように体験してきた、3 年生の北電見学旅行、4 年生の企業見学旅行、高専祭、体育祭などの様々な行事が、中止あるいは規模縮小となってしまいました。「思索と経験をめぐって」という言葉は哲学者森有正の著書のタイトルと同じ言葉です。この本と少し趣向は異なるかもしれませんが、人間は経験をすることによって思索し、思索が経験を生み、これらがめぐっていくことによって、視野が広がり、人間性も豊かになれるような気がしています。コロナ禍の高専生活において、本来なら出来るはずであった様々な種類の経験をさせてあげられなかったかもしれません。ですが、これから、進学や就職の新しい道に向けて出発する皆さんには、どうかこの思索と経験を繰り返して成長して欲しいと願っています。素晴らしい歌詞の校歌さえ歌うチャンスが失われてしまいましたが「汝が夢をもって」明るい未来へ進まれますように。

『止まれば一つ、進めば二つ』

第5学年生産システム工学科電気電子コース　長谷川　晃汰

あっという間に高専の 5 年間が過ぎてしまい、もうすぐ卒業と思うと悲しいです。少しにぎやかすぎて先生方には迷惑をお掛けしたかもしれませんが、5SE は仲が良くて最高なクラスでした。

私は勉強を教えるのが好きだったので、テスト前になると友人の家で勉強会を開いて勉強を教え、多くの赤点者を回避させてきたのはいい思い出です。レポートでストレスいっぱいの高専生活でしたが、自由な校風でとても楽しい 5 年間でした。

3, 4 年生では創造実験Ⅰ・Ⅱがあるので大変だと思うのですが計画的に，仲間との連携を意識してモノづくりを良い体験にしてほしいです。実験は面倒くさいと感じてしまうかもしれませんが、何事も楽しいと思う方がしあわせです。

タイトルの台詞は私の好きな言葉で、勉強でも他の事でもやったほうがいいと少しでも思ったらやることで得られることがあると思うので挑戦心を持つことが大切だと思います。気づいたら進学か就職かを迫られることになるので進学を考えている方は将来を見据えて自分の納得できる選択をできるように早めに勉強を開始して後悔のないように頑張ってほしいです。

『元気があれば何でもできる』

第5学年生産システム工学科情報コース担任　佐藤　恵一

卒業生の皆さん、そして支えてこられた保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。卒業生諸君は、肉体的、精神的に成長著しい 16 から 20 歳の期間を情報コースの仲間と多くの時間を過ごしました。このことは高専に入学したからこそ得られたことであり、高専での友人は皆さんのこれからの人生の宝になることでしょう。卒業する諸君に次の言葉を贈ります。「元気があれば何でもできる」これは昨年、亡くなられたプロレスラー、政治家であったアントニオ猪木氏の言葉です。プロレスラーとして有名ですが、政治家としても、湾岸危機で人質となったイラク在留日本人の開放に貢献したことで有名です。私が小学生の時、朝礼で校長先生が「人生において、勉強で勝負する人も、スポーツで勝負する人も、どちらも最後は体力勝負になります。」と話されました。その時は、「勉強で勝負する人も体力？」と疑問に思いました。今は理解することができますし、アントニオ猪木氏のこの言葉は深い言葉だと思います。これからの長い人生、様々な壁を乗り越えていかなければならないでしょう。そのためには、肉体的にも、精神的にも健康でなくてはなりません。健康であれば継続して努力することができますので、きっと壁を乗り越えることができるはずです。「元気があれば何でもできる！」です。

『高専での生活』

第5学年生産システム工学科情報コース　葛西　明洋

私たちの年から生産システム工学科は 2 年時からコースごとに分かれることになりました。2 年生は何事もなく普通の生活を送れていたと思います（正直あまり記憶がありません）。そして、2 年生の終わりに某ウイルスが蔓延していき、3 年生の前期はほぼほぼオンライン授業という初めての経験をしました。オンライン授業になったことによって授業の組み換えがあり、通年科目を前期にやったり、後期には週に 3 回実験があったりという 1 年になりました。4、5 年生は対面とオンライン授業の交互で予定も変更になったりと大変でした。

高専生活での最大の思い出となるはずだった 4 年生の春休みに行く見学旅行も中止となり、とても残念です。USJ 行きたかった。プライベートで行ってみようと思います。

普段のクラスの様子は音ゲーをやっている人やスマホゲームをやっている人といろいろです。授業中は真剣に聞いている人もいっぱいいます。そして、このクラスは 1 限の授業が始まる 5 分前はいない人がとても多いのですが、授業が始まると人が揃います。もう少し時間に余裕があるといいのですが…。こんな感じで 5S-J はゆったりとしたクラスでした。後輩の皆さん、残りの高専生活悔いのないように楽しんでください。遊ぶことも大切です。

『自分が選んだ道。自信と勇気と責任を持って！』

第5学年物質環境工学科担任　藤本　寿々

物質環境工学科６期生、29 名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。いよいよ高専を巣立つ日が来ましたね。４年間にわたりこのクラスの担任を務め、担任として送り出す最初の卒業生ですから、一生忘れられないことでしょう。今は保護者のみなさま同様、喜びと寂しさで胸がいっぱいです。

４月からそれぞれの道に進むにあたり、「高専で身に付けた化学に関する基礎知識やものの見方・考え方、友人を思いやる気持ちを大事にしてさらなる飛躍を」や「世界の諸問題にも目を向けてグローバルに活躍できる人材として貢献を」など、期待を込めた餞の言葉を送りたいですが、同時に心配も大きいです。20 歳を超えた成人に対して言うのもなんですが、親元を離れてホームシックにならないか、都会の生活に馴染めるか、変な勧誘にはまって騙されないか、交替勤務で生活リズムを崩さないか、しっかり考えて履修届を出せるか、新たな人間関係をうまく構築できるか、栄養バランスを考えた食事が取れるか等々、これまでみなさんの近くで成長を大切に見守ってきたからこそ、函館高専での生活とのギャップで体調を崩さないか心配が尽きません。自分の力と成長を信じて、周囲の方からの助言は素直に受け取り、困った時には誰かに相談して下さい。母校訪問はいつでもウェルカムです。とにかく、４月からの新生活を健やかに迎えられることを切に願っています。

『「自分」を知ること』

第5学年物質環境工学科　吉澤　慧

みなさんは「自分」のことを知っていますか？私はこの５年間で多くのことを学び、様々な人と関わることで、「自分」を知ることができました。

私は初めてアルバイトをしたとき、勉強との両立が心配でした。しかし、それまでダラダラ勉強していた時間をアルバイトにあてることで、短時間で集中して勉強できるようになり、計画性を身につけることができました。また、先輩からのお誘いでボランティア活動に取り組むようになり、たくさんの方々とお会いすることでコミュニケーション力を鍛えることができました。これらの経験を通して私は自分の長所を知ることができたと思います。

そして、これから就活や編入試験を控えている皆さんが避けては通れないものが面接です。面接で一つの質問に対して答える時間はそう長くはありません。その短い時間の中で自分をアピールするには「自分」を知ることが大切です。この文を読んでくださっている皆さんにはぜひ、たくさんのことに挑戦して「自分」を知り、自信を持って面接に挑んでいただきたいです！応援しています！

『卒業生に贈る言葉』

第5学年社会基盤工学科担任　山﨑　俊夫

社会基盤工学科第６期生の皆さん、そして保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。５年間という高専生活が終わりを迎えます。２年担任から今日まで多くの方々の協力を得ながら、無事卒業を迎えることができました。この場をお借りして感謝申し上げます。３年生の新学期開始から、新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンライン授業が始まりました。対面授業とオンライン授業を繰り返す出口が見えない未知の状況の中、４年生の学外実習は大きな影響を受けました。翌年（５年生）の夏季休業期間にようやく全員の学外実習を終えることとなり、このことは就職活動にも少なからず影響を与えたことでしょう。最終学年では、体育祭、高専祭などの学校行事が多くの制限下であったものの開催されたことは、学生生活の良き思い出の一つとなってくれていることを期待するものです。４月から始まる新たな生活の中で多くの困難に直面することと思いますが、何事に対しても勇気を持って挑戦してください。自分が得た知識や技術で社会貢献し、自分の道を切り開いていかねばなりません。皆さんが立派な技術者となり、社会で活躍されることを応援しています。頑張ってください。

『卒業にあたって』

第5学年社会基盤工学科　上野　みさき

先ほど５年学年末試験が終わりました。ちなみにみんなが必死に覚えたであろう隘路の説明は出題されませんでした。来年は出るかもですね、ご参考までに。

社会基盤工学科は個人的には大変だったと思います、試験は科目数が多いことに加え暗記の山、炎天下・極寒の測量実習、実験レポート、設計製図、測量製図…パスタで橋を作ってた頃が恋しいです。もちろん試験・課題をこなせば卒業できるのですが、５年間という道のりは長いです。卒業にたどり着いた理由として大きいのは友人の存在だと思います。課題が多い分支え合いも多いです。本クラス全体としては例年通りの仲の良さはないですが、各々の繋がりは大きかったと思います。もちろん友人だけでなく先生方にもたくさんお世話になりました、この場を借りて感謝申し上げます。

社会基盤工学科の原則…杭は蹴らない。今では笑い話ですが２年の頃の私たちにとって衝撃の出来事でした。必ず守ってくださいね。

「専攻科修了生へのメッセージ＆専攻科修了生からのメッセージ」

『模範解答のない世界』

専攻科長　社会基盤工学科　教授　平沢　秀之

専攻科を修了するみなさんへお祝いと就職・進学へ向けてのエールを贈りたいと思います。本科５年間＋専攻科２年間の修了、誠におめでとうございます。小学校～中学校、高専へとレベルが上がるにしたがって学業の難易度も上がりますが、ほとんどは模範解答がある世界なので、成績を高めることは模範解答へ近づける力を身に付けることになります。専攻科では、特別研究や PBL で研究に従事する機会が多くなり、模範解答がない世界に一部足を踏み入れましたが、まだ模範解答がある学業にも多くの時間を費やしたと思います。これまでは、模範解答に近づけるため素早く効率的に問題を解く能力を養って来た、とも言えます。

しかし、専攻科修了後の世界は、ほとんど模範解答のない世界なのだ。「社会に貢献する」、「真理を探究する」、「利益を上げる」、「人を幸福にする」、「自分も幸福になる」ための模範解答は用意されていません。用意されていないので自分で探すことになります。探し出す能力をみなさん自身が試行錯誤しながら身に付けて欲しいと思います。模範解答のない課題、直面する困難な現実問題への対処能力は、みなさんの体内で血となり肉となって蓄積された高専での知識や経験が基礎となって発揮されると期待します。

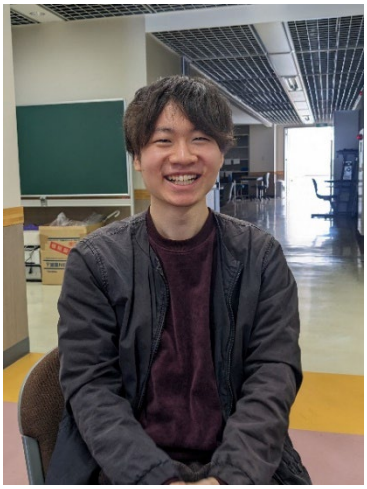
『長い高専生活を振り返って』

第2学年生産システム工学専攻　工藤　淳平

私は本科、専攻科併せて７年という長い時間を函館高専で過ごしました。寮生活も長く専攻科１年からは新設された国際寮で生活してきました。入寮した当初は慣れない環境で苦労しましたが振り返ってみると寮生活にはいい思い出の方が多いように感じます。国際寮に入寮後も新しい友人に恵まれ、日本人学生の代表として良い経験を積むことができました。研究活動では３年間良い環境で研究に熱中することができ学会発表では賞をいただきました。私たちの高専生活は本科５年から専攻科卒業までの３年間がコロナウイルスの影響を受けてしまい、見学旅行や高専祭などのイベントが軒並み中止になってしまいました。在校生の皆さんは今後もコロナウイルスが続いていくと思いますが、できることをできる範囲で楽しんでください。私の学生生活はまだ続いていきますが最も濃い時間を過ごした函館高専のことを忘れずに過ごしていきます。７年間という長い期間を乗り切り充実した生活を送ることができたのは先生方をはじめ事務の方や技術職員さんの支えがあったことがあります。この場を借りてお世話になったすべての方に感謝させていただきます。

『幾星霜』

第2学年物質環境工学専攻 佐藤 雅也



私が函館高専に入学してから、7年が経とうとしています。7年というと、小学校に通ったのが6年間なので、それよりも長く高専に在学をしていました。ですが、一瞬で時間が過ぎていき、気がつけば卒業です。専攻科に進学後は、特別研究やPBL実験が始まりました。そのため、空き時間などを使い研究を行う必要があったため、忙しい日が多かったかなと思います。ですが、専攻科に進学したからこそ得られたものもありました。大学編入を行うと、専攻している学科の研究をより深く学べるというメリットがあります。専攻科に進学をしても、専攻としている研究を続けることができます。さらに、PBL実験がカリキュラムに含まれており、今まで学んでこなかった新しい分野の知識も得ることができます。そのため知識の幅も広がり、社会に出たときに専攻外の任務を与えられたときなども、即戦力として活躍することができると思います。最後になりますが、部活動や学業を疎かにしなければ、高専生には卒業後の進路が沢山用意されています。少しでも気になる企業や大学等があれば、今の自分は何をすべきなのかを考え、実行してみてください。

『地域課題対応型創造実験』

第2学年社会基盤工学専攻 加藤 佑典
松倉 光輝

わたしたちは専攻科在学中PBL授業の一環として、菅原組と協力して海洋ゴミの回収システムの開発に取り組みました。毎週函館市内の漁港や松前港に行き、道南地域の海洋ゴミの現状を調査しました。調査を進める中でわたしたちの暮らす地域が抱えるゴミ問題やその被害について見聞が広がり、問題意識を強く持つようになりました。また、各漁港の関係者の方々と交流する機会があり、報道に乗らない現実を知りました。そのほかにも、これらの活動を新聞やテレビなどに取り上げていただき、海洋ゴミ問題について広く知っていただくための取り組みも行いました。この反響は大きく、多く方々に関心を持っていただくことができました。

これらの経験から学んだことは、問題解決に取り組む上で多くの人と協力して試行錯誤をすることで必ず道が開けることです。また、地域の問題に真摯に向き合う姿勢がより良い社会を築いていくために必要だと経験を通して実感しました。

皆さんもぜひ専攻科のPBLの授業を通して、「アレ」を味わってみてはいかがですか？

『留学生からのメッセージ』

◎第５学年生産システム工学科情報コース MOHAMMAD AIMAN BIN AZANI（アイマン）

こんにちは。マレーシアから来たアイマンと申します。はじめに留学の機会を与えていただき、本当に感謝しています。最初は函館高専に来るのが、とても楽しみでしたが少し怖かったです。なぜなら、自分の日本語能力に自信がなかったので、「友達がたくさんできるかな？高専の勉強についていけるだろうか？」と色々な悩みがありました。しかし、先生やクラスメートがとても親切にしてくれたので、安心ができ、とても感謝しています。先生方と友達のおかげで言葉の壁がなくコミュニケーションできて、とてもありがたかったです。

あっという間の３年間が経ちました。高専の生活を振り返ると様々な経験ができたので、それらを糧にこれからの人生をより良いものにして行けるように頑張ろうと思います。最後に担任の先生をはじめ、高専の先生と事務の方々がいつもサポートしてくれて本当にお世話になりました。（出身：マレーシア）

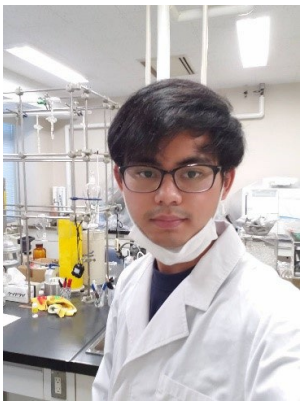
◎第５学年生産システム工学科情報コース ARIUNBOLD USUKHPUREV（ウスコー）

新型コロナウイルスの影響で、３ 年生の時モンゴルで後期まで遠隔授業を受けていましたが、ついに函館に来られて対面で参加するようになりました。最初は日本語で上手く喋られる自信がありませんでしたが、クラスメート、先生、事務員などの人々がいつも助けてくださったおかげで函館の生活に早く慣れることができました。初めて函館に来て、ラッキーピエロで食べた料理の味は今でも忘れられない思い出になりました。

函館高専で、先生達や留学生の先輩と友達からたくさんの事を教えてもらって、３年前の自分よりはるかに成長したと思います。この３年間では、困ったこともいっぱいあったり、自分を挑戦することもできて、本当にこれからの人生で役に立つ経験になったと思います。

この３年間に振り返って、学校の関係者の皆さんに大変お世話になりましたこと感謝します。（出身：モンゴル）

◎第５学年物質環境工学科 MUHAMMAD RAFI YUSMAN（ラフィ）



函館に来てこの３年間、とても短く感じました。３年前函館高専に入学したとき、コロナウイルスが流行りはじめてしばらくはオンライン授業になってしまいました。最初はクラスメイトに会えず、日本語のことや授業のことなどについてとても不安でした。対面授業が始まって、クラスのみんなが私に優しく接してくれたのでとても安心しました。３年と４年のときはコロナでたくさんの学校行事が中止になり残念でしたが、今年は高専祭や体育祭といった学校行事に参加できて、楽しかったです。私は将棋が好きで去年から将棋部に入って、他の部員と将棋を指せてよかったです。全国高専将棋大会にも出られて、とても貴重な経験でした。最後に、この３年間支えてくださった先生や事務の方々に感謝しています。ありがとうございました。（出身：インドネシア）

◎第５学年社会基盤工学科 GENDENJAV TEGSHDUUREN（テグシェー）

こんにちは、モンゴル出身のテグシェーと申します。

日本に来てこの２年半はとても楽しくて、いろいろ経験して一生忘れられない、たくさん思い出を作りました。新型コロナウイルスの影響で６か月ぐらいモンゴルから遠隔授業を受けて日本にいる期間が短くなったが、先生、クラスメート、留学生、一緒に住む寮生たちとのコミュニケーションやお助けのおかげで後悔しない期間を過ごしました。また、自分も成長できて、これからの人生にも役に立つ性格や能力を身に付けて、世界を見る視点が広がりました。この間、私にいろいろ助けてくれた先生たちや友達、また事務の人々の皆さんに本当に感謝しています。３年間大変お世話になりました。

（出身：モンゴル）

◎第２学年生産システム工学専攻 BURENTUMUR ENKHMANLAI（マンライ）

私はモンゴル高専を卒業後、人工知能システムをもっと学ぶため、生産システム工学専攻に留学することにしました。日本に来るのはとても嬉しかったのですが、新型コロナウイルスで日本に行けなくなり、１年間モンゴルから勉強することになりました。オンラインで特別な勉強ができたのは、わからないことを教えてくれる先生や同級生のおかげです。昨年 ４ 月に函館市に来て特別研究に専念し、国際寮でいろいろな国の学生と一緒に勉強して、とても楽しい１年間を過ごしました。モンゴルにいた頃は、工学の勉強をしようと思っていましたが、この １ 年間で、工学倫理、研究方法、コミュニケーション能力、日本のマナー、文化など、多くのことを学びました。予想以上でした。日本で勉強した教育は、将来の夢の実現に役立つと考えられています。

（出身：モンゴル）

学校行事等について

『学生主事からのメッセージ　-5W1Hの思考を日常に取り入れる-』

学生主事　一般系　教授　下郡　啓夫

心理学者マズローは、人間の欲求が低次のものから高次のものへと至る階層性があると述べています。まず食欲などの生理的欲求や安全を求める欲求がある。これは個体が生きていくために不可欠で、一番基本的な欲求です。それが十分満たされると、周囲の人たちと仲良くなりたいといった人間関係的な欲求が出てくる。人間関係的な欲求が満たされると、 今度は自己実現や成長の欲求が出てくるというわけです。

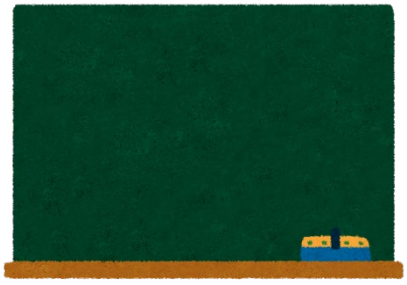
今年度が終わろうとしている今、みなさんは、クラス、クラブ・愛好会などで自分の居場所ができ、心理的安全性が高くなってきたという自覚があると思います。この心理的安全性の高まりがあるからこそ、勉強やスポーツで頑張ろうという意欲の喚起に繋がりますし、その先の自分の進路、生き方という問題にじっくりと向き合えることができます。

今後、今の心理的安全性の高まりをさらに伸ばしていく上で、私はみなさんに「5WIH」で問題点を捉えてみてもらいたいと思っています。「5WIH」とは「WHAT(何)」、「WHERE(どこ)」、「WHEN(いつ)」、「WHO(誰)」、「WHICH(どの)」、「HOW(どのように)」のことです。つまり、何が分かっていないのか、どのようにミスをしているのか、いつごろまで遡って見直すべきか、など、今向き合っている課題を、「5WIH」を使って具体的に掘り下げていくのです。

この「5WIH」は、自己分析だけでなく、人間関係の分析でも使えます。その分析ができるからこそ、相手への配慮や傾聴といった、自身の相手と向き合う上で求められる態度の醸成にも通じます。

なぜこの「5WIH」の意識が自己理解や他者との円滑な関係づくりに通じるかというと、自身の意見・解釈と起こった事実とを区別する思考を促すからです。実は、意見・解釈と事実の区別は、新製品の開発における調査で、顧客の行動の中に隠れた心理、インサイトを理解する上でも求められます。今の時代、新製品の開発にはこのインサイトの発見は必須です。

ただ、この意見・解釈と事実の区別は意外と難しく、訓練が必要だと私は思っています。ですから、創造的実践的技術者に通じる第一歩として、みなさんは「5WIH」を日常で意識的に使い、日々訓練してみてもらえたらと思います。



『令和4年度高専祭は、3年ぶりの一般公開により開催しました！』

学生会会長　第4学年生産システム工学科情報コース　石川　廉

令和４年 10 月 29 日（土）、30 日（日）に、高専祭が開催されました。テーマは『鳳蝶（チョウ）』。このテーマは、チョウのように高専祭で羽ばたくという願いが込められたものでした。昨年度は従来の実施内容に新たな可能性を見出そうと、学内だけでできることを模索したものでした。そこから今年度は、さらに一歩踏み出し、３年ぶりの一般公開を実現しました。

初日（学内公開）では、学科展示、E-sports のほか、久しぶりの模擬店やカラオケ大会を実施しています。また、新たな試みとして、謎解きを実施、構内を回る、構内に貼ってある問題に挑む学生のみなさんの様子が見られました。さらにコロナ禍の学校祭の１企画として、キッチンカーによる食事の販売も行いました。

２日目（一般公開）では、初日の学科展示、E-sports、模擬店のほか、ステージパフォーマンスやうちわ抽選会を実施しました。また、コロナ対策として学外の方を招待制とし、事前に QR コードが書いてある招待券を配布しました。当日はどれだけの方が来校してくださるか不安でしたが、その不安は杞憂に終わり、多くの方が来場してくださりました。また受付での QR コードの読み取りも混乱なく進めることができたと思います。

最後には、夜空に咲く花火により、フィナーレを迎えました。

振り返ると、コロナ禍であることから、今年度もさまざまな制約がありました。学内公開では、飲食による感染の対策のために、多くの教室を確保いたしました。また、カラオケ大会の会場となった体育館の観客動員も、入場制限を行っています。一般公開では、来場人数の制限のほか、飲食販売を一切しないなどの、コロナウイルスの感染対策を行っています。来年度はそこからさらに一歩踏み出し、純粋に高専祭で学生の皆さんが表現したい姿に近づけていければと思います。

ただ、先述した QR コードの読み取り機を学生会自身で作ったり、赤ちゃん連れの母親のことを想い、授乳場所の設置を検討したりするなど、運営面における創意工夫が見られました。また、模擬店の企画内容も、単純な販売に留まらない、さまざまな智恵を絞ったものも多くあったと思います。高専祭のイノベーションの萌芽が見られた今年度、次年度はさらに創造性が豊かに発揮されるのでは、と期待しています。

選手が休憩中です
少しの間お待ちください
14:50～開始
簡単なルール説明です

『第1回以来の快挙！
第 33 回プログラミングコンテスト課題部門にて最優秀賞受賞』

チーム引率　生産システム工学科　准教授　倉山　めぐみ

全国高等専門学校　第 33 回プログラミングコンテストの課題部門（本年度は、「オンラインで生み出す新しい楽しみ」をテーマにした作品の作成が課題）において、最優秀賞・文部科学大臣賞を本高専から参加したチーム、作品タイトル「HEXELLENT!」（ヘクセレント）が受賞しました。函館高専では、第 1 回大会以来の快挙となりました。

6 月の予選（書類審査）を通過し、本選に参加したのも（競技部門を除く）12 年ぶりということもあり、7 月の夏休みから 9 月の試験直前もシステムの作成や各種提出書類の作成に追われ、結局、函館を出発する直前まで、システムの微調整等を行っていたため、会場の高崎まで、でかいスーツケースに完成したシステムを入れ、新幹線で運搬していきました。前日の夜もホテルの部屋で、最終調整や発表用のスライドの作成に追われ、プロコン当日を迎えました。当日のブース準備や発表準備は、なかなか大変なものではありましたが、プレゼンテーションでは、審査員の笑いを誘い、質疑応答にも時間いっぱいまで対応しました。また、デモ審査では、審査員からの質疑応答に必死に答えていた様子でした。

ここで、「HEXELLENT!」のシステムですが、1 対 1 のターン制の陣取りゲームをオンラインで遠いところで対戦していたとしても、オフライン対戦のような体験ができるように、自身と相手の基盤が用意され（今回は自身の基盤のみ作成）自分の駒は自身の基盤上で動かし、相手の駒は相手の操作によって、自身の基盤の上にある相手の駒が自動的に動くものです。このような基盤上での動きをさせることによって、オンラインで対戦している状況ですが、オフラインの体験をし、見えなくてもそこにいる感覚を与えるシステムとなっています。システムの詳細については、第 33 回プロコンの HP に当日配信されていた動画の URL が記載されていますので、興味を持たれた方は、ぜひご参照ください。

HEXELLENT!チームの快進撃は、プロコンにとどまらず、BCN IT ジュニア賞、ヒーローズ・リーグ KOSEN 賞 by 独立行政法人国立高等専門学校機構 共同教育プロジェクトの各賞を受賞し、令和５年３月に行われる起業家甲子園への出場を目指し、現在準備を進めている最中です。まだまだ続くこれからの活動にも期待し、このチームの快挙を追ってくれる後輩たちの出現も楽しみにしています。

『高専ロボコン 2022 北海道地区大会を終えて』

生産システム工学科機械コース　准教授　鈴木　学

令和 4 年 10 月 15 日(日)に旭川高専にてアイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト 2022 北海道地区大会が開催され、道内 4 高専 8 チームが参加し、 本校からは高学年中心の A チームと低学年中心の B チームが出場しました。

今年のテーマは、「ミラクル☆フライ～空へ舞いあがれ！～」で、指定された数か所へ紙飛行機を着陸させるという競技でした。本校 A チームは、ラックを二つのモータで高速移動させ、紙ヒコーキをそれにのせて射出する Mauler（モーラー）、B チームは、ピッチングマシンのように二つのモータを回転させ、紙飛行機をベルトコンベアで装填させて射出する永飛舞落射（エビフライ）を製作しました。

今回の大会は各高専 4 つのチームを一つとした予選を行い、上位 2 チームの計 4 チームで決勝トーナメントを行う形式でした。函館高専は A チームが予選 2 位、B チームが予選 1 位で通過(両チームとも予選通過は函館だけ)、決勝トーナメントでは函館高専 A と B が戦うこととなり、B チームが勝利し決勝に進みましたが、旭川高専に敗れ、準優勝となりました。その後、表彰式にて A チームは技術賞と特別賞（本田技研工業株式会社）を、B チームは特別賞（東京エレクトロン株式会社）を見事に受賞しましたが、全国大会への審査員推薦を逃し、全国大会出場とはなりませんでした。

今年もコロナ禍のため製作時間が短い中でも、事前にロボットの足回りを製作していたおかげで『紙飛行機を飛ばす機構』に集中して取り組むことができ、両チームとも最低でも 1 点はとれるロボットを仕上げました。A、B チームともに安定して点数を取れていたのは函館高専だけだったので、『ちゃんと試合になるロボットを作れた』ことは自信を持って良いと思います。ただ、改良の余地は十分にあったため、『全国大会にいけたらもっとよくしよう』と考えていました。しかし、まさかの推薦落ちとなり、部員、教員、応援団全員が愕然とする非ッ常ォォォォォに悔しい思いをしました。次年度はこの悔しさをバネにより良いロボットを作ってくれればと思います。

最後になりましたが、日頃よりロボット研究会をご支援くださった多くの皆様、当日応援してくださった皆様、心より御礼申し上げます。

大会後の選手，応援団全員での記念撮影

『野球部２年越しのドラマ
～令和4年度全国高等専門学校体育大会で準優勝～』

生産システム工学科機械コース　教授　山田　誠

野球部としては、10 年前(高専 50 周年時)、高野連選手権大会で、南北海道大会に出場してから、10 年間、高専大会では勝利することができない状況で道内４位が続いていました。それが、昨年度（2021 年）の北海道高専大会では優勝し全国大会への出場、今年度(2022 年)は、全国大会準優勝を果たしました。驚きです。

これは、2021 年の道内高専大会（コロナのため一度中止となったのですが、全国大会出場校を決めるための大会を開催）から続いたドラマのように感じます。2021 年７月酷暑の道内高専大会の決勝戦（対苫小牧高専）では、９回まで３点差をつけられる劣勢でした。その９回裏に同点に追いつき、10 回表に再度３点差をつけられ、それでも 10 回裏に４点を取り返しサヨナラ勝ちとなりました。その勢いをそのまま今年度のチームは引き継いだものと思います。その時のスコアはこうでした。

苫小牧　１０１　０００　００２　３　　7
函　館　０００　０００　０１３　4x　　8

このときの、あきらめない姿勢、ベンチを含めたチームワーク、ここという時の集中力、これが今年度まで継続されてきたものと考えています。全国大会では、１回戦あと１歩のところで破れたため、今年度は、全国大会で優勝するということを目標に取り組んできました。

今年度の地区大会では、函館開催ということもあり、１回戦旭川、決勝戦釧路とも危なげなく勝ち進みました。この 10 年間、「全国優勝できるのでは」と思うくらい強いチームもありました。しかし、なかなか勝利することができなかったその中で、この戦いは見事でした。

全国大会では、２回戦での佐世保高専、鮮やかなトリプルプレーを決められるなどあった中での逆転勝利、選手は粘り強く戦ってくれました。準決勝では木更津高専に順調に勝利し、ダブルヘッダーでの決勝戦に臨みました。この試合は、豪雨のため２時間程度中断し、長時間酷暑の中で選手の消耗がひどく、特に、投手がいなくなる状況となってしまいました。ガンガン打たれ、一つのアウトをとることの難しさを痛切に味わいました。その中で、優勝した仙台高専には、大いなる敬意を表します。また、本校の選手も、最後までよくやってくれ、大変立派でした。次回は優勝できるように期待しましょう。

最後に、今年度のチームの中心であった３人の５年生からのコメントを紹介いたします。

「僕の学年は、３年生の時、コロナが流行し始めた頃で最後の夏の大会に出られなかったので、今回の高専大会で準優勝という最高の思い出を作ることができて本当によかったです！試合になれば一致団結するチームワーク、人生で一度見れるかどうかの数々の珍プレー　etc…、どれも忘れられません！！来年は優勝してくれ！！」（若松秀征）

「決勝では負けてしまいましたが全国大会で準優勝出来て嬉しかったです。来年は優勝できるよう頑張ってください。」（松井研太）

「こんなキャプテンについて来てくれてありがとうの気持ちが強いです。仲間との野球が楽しくもうできないと思うと寂しいです。来年は優勝して欲しいなと思っています。」（尾関俊哉）

『令和4年度全国高等専門学校体育大会等における学生の活躍について』

学生主事　一般系　教授　下郡啓夫

令和４年７月に、高専を置く全国の各地域で地区大会（※１）が開催されました。その結果を受け、令和４年８月中旬～９月上旬に、一般社団法人全国高等専門学校連合会及び関係協会主催による全国高等専門学校体育大会が四国地区を会場に開催され、本校からは９競技約 90 名の学生が、北海道地区の代表として出場しました。

大会参加にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響により、課外活動の時間制限等の制約が伴う中、健康観察等を十分に行うなど体調管理を徹底し、限られた時間帯での練習活動に熱心に取り組むなど、その成果を残そうと一人一人の学生が全力で大会に臨んだ結果、３つの競技（陸上競技、野球競技、将棋（※２））において、見事に全国上位入賞を果たすことができました。

惜しくも入賞には至らなかったチーム・選手たちも含め、地区大会及び全国大会に出場した学生諸君に向け健闘を称えるとともに、今後の学校生活がより有意義なものとなるよう、学業と課外活動の両立を継続していただき、教職員一同もその支援に努めていきたいと思います。

※１　令和４年度北海道地区大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度開催の大会以来２年ぶり（ラグビーフットボール競技除く）に道内各高専（地域）を会場に開催されました。

※２　将棋大会は、体育大会とは別の枠組みにより、全国高等専門学校将棋大会として開催され、令和４年度は九州地区で開催されました。

（１）令和４年度全国高等専門学校体育大会等の上位入賞競技

野球競技 全国第２位（準優勝） 9/2（金）-9/4（日） 香川県営野球場	５S-M　松井研太、若松秀征 ５Z　尾関俊哉 ４S-M　板橋宏汰、佐藤望人、能登谷悠河 ４Z　浅利真次、金谷洸聖、孫田遼 ３C　岩田晋作、工藤康平、柴野朝吏、竹澤遼騎翔、花田康生 ３Z　中川晴斗
陸上競技 8/20（土）-8/21（日） 愛媛県総合運動公園陸上競技場	５Z　川島太陽：走高跳全国第２位（記録 1m93） ５C　吉野広大：１１０ｍH　全国第３位（記録 15.43/+0.8）
将棋　8/24(水) -8/26(金) AIM ビル 3F 展示場（北九州市）	１年２組　齋藤くらら：女子個人戦　全国第２位（準優勝）

（２）令和４年度全国高等専門学校体育大会等出場競技及び出場学生

種目	日時・会場	出場学生
陸上	8/20(土)-8/21(日) 愛媛県総合運動公園 陸上競技場	○男子 走幅跳：佐藤嶺也（3Z）、地主丈人（2C） 110mH：吉野広大（5C）、松井翔飛（4S-M） 800m、 1500m：深川寛聡（4S-E） 400mH：松井翔飛（4S-M） 円盤投、 やり投：若山和雅（4C） 走高跳：地主丈人（2C）、川島太陽（5Z） ○女子 800m：長岡穂華（2C） 砲丸投：外﨑朋夏（5Z） 走幅跳：鈴木穏（1-4）、石井透子（1-5） 100m：鈴木穏（1-4）
卓球	8/20(土)-8/21(日) 高知県立県民体育館	○男子団体戦 濱名耕輔（4Z）、角誠寿（4S-E）、山﨑大樹（4S-M）、 山下千暁（3S-J）、福地陽人（3C）、濵出大地（2C）、 三浦太蔵（2C）
テニス	8/24(水)-8/26(金) 大神子病院しあわせの 里テニスセンター	○男子団体戦 赤石和瞳（5S-J）、外舘円心（4S-J）、羽鳥虎太郎（3S-M）、 町谷駿太（3S-M）、米村有生（2S-E）、清田雄太（2Z） ○男子個人戦ダブルス 谷目蒻（2S-M）、清田雄太（2Z）
バスケットボール	8/27(土)-8/28(日) 愛媛県総合運動公園 体育館	○女子団体 伊勢谷すずほ（3C）、三川ゆい（3C）、亀谷孝海（3Z）、 BagendaAde（3Z）、寺尾香梨奈（2S-M）、 三浦結翔（2S-M）、三浦結菜（2S-J）、阿部來瞳（2Z）、 佐藤夕波（2Z）、石田あかり（1-1）、 佐々木いちか（1-4）、浅利日菜子（1-5）
ソフトテニス	8/27(土)-8/28(日) 香川県総合運動公園 テニスコート	○女子個人戦ダブルス 福田ひまり（2S-M）、長谷川麻衣（3S-J）
バドミントン	9/3(土)-9/4(日) 香川県丸亀市民体育館	○男子団体戦 大浦利來（3S-M）、髙橋大貴（3S-M）、 能登高嶺（3S-M）、田中誠一郎（3Z）、奈良宝（2S-M）、 海老子快斗（2S-J）、内藤優希（2C）、山田涼太（2C） ○男子個人戦シングルス 奈良宝（2S-M） ○女子個人戦シングルス 石井彩水（4S-E）
ハンドボール	9/3(土)-9/4(日) 高知県立春野総合運動 公園体育館	○団体 村田竜平（5S-E）、大藏伸哉（5C）、 坂下凌羽（5C）、工藤陽希（5Z）、大澤泰輔（4S-M）、 片桐颯大（4S-E）、加賀奏汰（4S-J）、中山青哉（4C）、 小林琹大（3C）、佐々木起輝（3C）、本木優多（3C）、 吉田匡佑（3C）、本間愛和（3Z）、上野祐人（2S-J）、 佐藤壱成（1-1）、藤谷亮太（1-1）
将棋	8/24(水) -8/26(金) ＡＩＭビル３Ｆ 展示場	○団体戦 中下奨（5C）、堀口雄伍（2S-J）、 齋藤くらら（1-2） ○男子個人戦 中下 奨（5C）、堀口雄伍（2S-J） ○女子個人戦 齋藤くらら（1-2）

『ガールズオープンキャンパス 2022　3年目を迎えて』

女子学生サポート室長　物質環境工学科　准教授　松永　智子

令和４年 10 月 22 日（土)、「ガールズオープンキャンパス 2022」を開催しました。ガールズオープンキャンパスは女子中学生とその保護者を対象としたイベントで、３年目となる今年は、函館市内外から午前の部・午後の部を合わせて 57 名の参加がありました。参加者にはタケ先生による遠隔授業に加え、生産系実験「モータを駆使して風を巻き起こせ！」および化学系実験「色が変わる不思議な液体」を、また、函館高専校内を巡る「キャンパスツアー」では水工学実験室(宮武先生)も見学し、津波の発生メカニズムを体験してもらいました。

本イベントの主役となる実験の講師は、理系女子実験隊として各種イベントで活躍してくれている本校の女子学生です。４年生・３年生が中心となって、事前準備から当日の実験指導までしっかりやり切ってくれました。また、上級生の頼もしいリードの下、２年生、そして新しく加わってくれた１年生も、イキイキと講師役を務めることができました。このような、女子学生がキラキラ輝く姿は、函館高専ガールズオープンキャンパスの一番の見どころになっています。

ガールズオープンキャンパスの見どころはこれだけではありません。体験授業・実験の後は、恒例となった「トークイベント」です。高専進学を考えてくれている中学生と本校の女子学生が同じテーブルを囲み、ざっくばらんにトークに花を咲かせます。女子学生にとって函館高専とはどんなところなのか、大小さまざまな函館高専の魅力を、学生ならではの視点で中学生に伝えます。初めは緊張した様子の中学生も、トークが終わる頃にはすっかり打ち解けて“高専女子モード”に。せっかく盛り上がったところに終了時間を知らせるのは、毎年ためらってしまうほどです。「気になっていたことを質問できてよかった」「在学生の話を聞けて参考になった」と、好評をいただいているイベントです。

希望者には寮の見学も受け付けています。女子寮の居室や食堂など、春潮寮での生活環境を入寮者以外が実際に見ることができるのは、実質この時だけです。

＊　＊　＊

コロナ禍の 2020 年に始まったガールズオープンキャンパスも、昨年からは広報委員会に主催していただき、たくさんの方々に支えられて今年で３回目を迎えることができました。次年度以降もますますパワーアップして、理工系を共に学ぶ仲間の輪を広げていきたいと思います。

『e-sports 愛好会の活動』

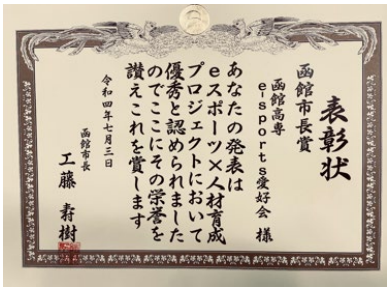
e-sports 愛好会部長　第2学年生産システム工学科情報コース　堀口 雄伍

e-sports 愛好会はすべて現 2 年生が発足メンバーで、今年度４月に正式に愛好会として認められました。私たちの活動は「e-sports」⇨「ゲーム」⇨「悪」というイメージを「私たちの活動で払拭する」ことを目的にしています。このため「家でもゲーム、学校でもゲーム」という活動にならない！を自分達自身が強く肝に銘じています。

このため、昨年度正式な愛好会発足前からすでに道南 e-スポーツ協会や株式会社 GameWith の協力のもと、私たちが主体的に企画・運営まで行う本格的な e-sports 大会を開催することを最大の目標とし、コロナ禍の猛威の中登校できない中でもロジカルシンキングの講義なども受けてきました。そして e-sports で函館を元気に！の思いに賛同した函館市の協力も受け、令和４年７月３日に、はこだてみらい館で e-sports イベント「3BOX vol.1」を開催しました。このイベントの第一部では e-sports とは何か、そしてどのように地域を元気にすることにつながるか？というプレゼンを行い、第二部ではオンラインでの e-sports 大会を実施しました。最初は GameWith の方がカメラ切り替え（神視点）を行なっていましたが、途中からは私たちが実況解説、視点切り替え、機材運営、受付・誘導などのすべて役割を担当しました。そしてイベント終了後には函館市長賞をいただきました。

その他にも、お年寄りを対象にした「健康ゲーム講座」として e-sports と健康のプレゼンと本格的な自動車のドライビングゲーム体験、全国ケーブルテレビネットワークが主催の e-sports 大会で函館 NCV 推薦による出場とタレントの「あばれる君」チームとのエキシビション対戦、高専祭での e-sports 大会運営など活動の幅が広がっています。こうした活動は新しい e-sports 部のあり方として F M いるかや NHK でも取り上げられました。

現在、部員は 1 年生を含め 25 名です。全員が次年度の活動企画班、動画・SNS などでの活動の PR 班などの役割を持ち、さらには各種 e-sports 大会での好成績も目的にして各人が責任を持って活動を行なっています。最近は e-sports を通した人材育成への理解ある企業も増えているようで、私たちの活動のためのゲーミング PC や周辺の各種機材は企業からの総額 100 万円を超える支援により購入できました。こうした企業の期待を裏切らないためにも、私たち自身が活動を通して成長し、そして e-sports への理解を深めたいと思っています。



『60 周年記念講演会が開催されました』

副校長（地域・企画担当）物質環境工学科　教授　小林 淳哉

函館高専は昭和 37 年（2022 年）に創立し、今年度は 60 周年にあたります。そこで令和４年 12 月 19 日（月）に創立 60 周年記念講演会として武部勤氏（自由民主党元幹事長、現在は公益財団法人東亜総研代表理事・会長、長岡技術科学大学の名誉博士）を講師にお迎えし「どうなる世界の中の日本、北海道」と題して講演いただきました。

武部氏は、現在政治家を引退されてもなお世界の中で日本が果たす役割に貢献しており、特にベトナム、モンゴルなどアジアの国々との間で「人と技術」のネットワーク構築のための活動に精力的に取り組んでおられます。コロナ禍における感染防止の観点から、会場で聴講する学生は専攻科生だけで、他はオンラインで教室から聴講するハイブリッド方式でしたが、終始学生たちの方に顔を向けて学生に向け熱く語り、時には質問や余談なども交えながら進められました。

講演にあたり、高専のことをしっかり調べてきたとのことで、これまでの高専の果たしてきた技術者育成への貢献をとても高く評価していただきました。そして高専だからこそ、アジアの国々との連携をとり相互の人材交流も含めてネットワークを構築していくパートナーになっていけるはずであり、北海道の函館高専がそうした活動をすることが北海道の発展にもつながると語られました。また学生のうちから相互に交流する活動を積極的に行うべきとのことでした。講演の中で具体的に語られる「こういうことを検討していこうと約束した」などの活動の相手が、アジア各国の首相や大臣、大学長などで、さすがの人脈と影響力を感じさせるものでした。函館高専は高専機構としてのベトナムへの高専方式の技術者育成を支援しています。またモンゴルからは留学生も在籍し、モンゴルの３高専との連携を深めようというまさにその時であり、今回の講演は両国への技術者教育支援と人材・技術連携への今後の追い風ともなるでしょう。

なお、当日は長岡技術科学大学の鎌土学長他、長岡技術科学大学の執行部の教授陣、函館高専地域連携協力会川島会長、地域企業、函館市からも参加されました。

国際交流について

『新モンゴル高専と学術交流協定締結』

一般系教員　奥崎 真理子

函館高専は、2022 年 9 月 20 日に新モンゴル高専と、教育及び研究の分野について相互協力を目的とする国際交流に関する覚書（MOU：Memorandum of Understanding）を締結しました。函館高専からは、阿部 恵校長を団長として、グローバルセンター長・一般系教授 奥崎 真理子、生産システム工学科准教授 小山 慎哉、そして総務課長補佐 山本 紀子が随行しました。

新モンゴル高専は、学校法人新モンゴル学園（New Mongol Academy）のスクールの一つとして 2014 年に開校しました。新モンゴル学園は、私立ながら多角化経営で学校規模を増やしており、首都ウランバートルで、小学校から高専・大学まで組織的に教育を展開しています。新モンゴル高専は、日本の高専を手本として、精力的にカリキュラム整備等を進めています。新モンゴル高専の先生方の半数は日本の大学や大学院への留学経験があり、博士号や修士号を取得した先生方も多数おられます。MOU 締結に際して、函館高専とのやり取りは全て日本語で行われました。

締結調印に先立ち、新モンゴル高専のツェンドスレン校長先生から学校組織と新モンゴル高専について説明があり、函館高専からは、阿部校長より学校概要の説明、小山准教授より生産システム工学科情報コースのカリキュラム設計および卒業研究例に関する紹介、奥崎教授よりモンゴル人留学生の日本での生活の様子について報告を行いました。特に、新モンゴル高専は令和 4 年 9 月にコンピュータサイエンス学科を新設しており、函館高専の先行例を参考にしたいという申し出があったため、情報コースについて詳細な説明を行いました。

調印式終了後には、新モンゴル高専の学内を視察しました。学校はウランバートルの中心に所在するため、高層階のビルが校舎となっており、地上階に教室や図書館、各種センター等、地下に実習室等を配置しています。図書館の蔵書には、日本の高専で使用されていた専門書も多数収められていました。学生は制服を着用し、日本語と英語も勉強していました。

協定締結により、両校における国際交流の推進が期待されます。さっそく、今後の取組として、令和 5 年 3 月に、新モンゴル高専・タイ・シンガポールの 3 か国の学生と全道 3 高専、そして本校学生による多国籍ワークショップの開催を企画しています。

『国際交流の状況について』

一般系教授　グローバルセンター長　奥崎 真理子

国際交流事業の中軸として、長きにわたり八戸高専で活躍されてきた阿部恵先生が今年度 4 月に函館高専に校長として赴任され、COVID-19 等への安全対策を確保しながら函館高専の国際交流事業は急速に推進されている。以下、今年度の遠隔授業が明けた 6 月から 12 月までの実施内容を箇条書きで示す。

【7 月】
・ベルギー王国 Hènallux（Haute Ecole De Namur-Liège-Luxembourg）の教職員等 3 名が函館高専を訪問
【8 月】
・シンガポール Nanyang Polytechnic に本校 4 年生 4 名をインターンシップ派遣(～9 月)
・フランス Bethune　IUT に本校専攻科生 1 名をインターンシップ派遣（～10 月）
・フランス University of Strasbourg から研修生 1 名をインターンシップ受入（～10 月）
【9 月】
・新モンゴル高専と MOU 締結。モンゴル工業技術大学付属高専（IET モンゴル高専）と国立モンゴル科学技術大学付属高専（科技大高専）視察。在モンゴル日本国大使館、モンゴル・日本人材開発センター、JICA モンゴル事務所、高専機構リエゾンオフィス表敬訪問
・シンガポール Nanyang Polytechnic から研修生 2 名をインターンシップ受入(～12 月)
【10 月】
・JASSO 海外留学支援制度（協定派遣）2023 年度申請
・台湾国立聯合大学創立 50 周年記念式典出席、学術交流協定締結
【11 月】
・国立高専東北・北海道地区国際交流担当者協議会出席（オンライン）
・シンガポール Temasek Polytechnic と学術交流協定締結
【12 月】
・ベルギー王国 Hènallux（Haute Ecole De Namur-Liège-Luxembourg）と学術交流協定締結
・JST さくらサイエンスプロジェクト採択（令和 5 年 3 月スプリンググローバルセミナー）

これ以外にも 8 月から 12 月まで、本校の留学生が母国を紹介するグローバルカフェ（マレーシア、モンゴル、モロッコ、インドネシア、ラオス、ミャンマー、シンガポール）を開催したり、ユニットキッチンを使って国際寮生の生活改善セミナーを実施した。

函館高専の国際交流事業は、今後もますます推進の度合いとスピードを高めていくことだろう。学生と教職員の視野を広げ、エンパシーカを高め、将来の日本と世界を支える人材育成のために、グローバルセンターが果たす役割は多岐に渡る。コロナ禍水際対策等、配慮すべき問題課題は多いが、ポジティブマインドで取り組んでいきたい。

春潮寮通信

前号に続き、寮でのイベントの様子を伝えていきたいと思います。

本年度もコロナウィルス感染拡大の影響により、夏季休業が 2 週間前倒しになり、当初予定されていた前期期末試験が夏季休業明けに移動されました。そのため、閉寮も 7 月 28 日と 2 週間前倒しになりました。その後、第 7 波が 8 月中旬にピークを迎え、9 月には徐々に落ち着き、9 月 11 日に開寮を迎えました。その後、14 日から 21 日の期間で前期期末試験が実施され、通常の寮生活に戻りました。

◎10 月：春潮寮スポーツ大会・薄暮祭

春潮寮スポーツ大会が開催されました。実施競技は、ドッジボールとソフトボールです。密回避のため、競技参加者のみが競技場に集まり、試合が終わるごとに次のチームが集まるという密集対策と感染対策を行い開催されました。チームは男女、学年混合で編成しました。白熱した試合が日が暮れるまで続けられ、久しぶりの運動ということもあり、大いに盛り上がりました。スポーツ大会の後は薄暮祭というバーベキューでの夕食が実施されてきましたが、現状ではまだ密集を回避する必要があるため、特別食で代わりとしました。

写真 1

写真 2

写真 1　ソフトボール風景

写真 2　ドッジボール風景

◎11 月：テーブルマナー講習会

第 4 学年の寮生を対象に、テーブルマナー講習会が開催されました。内容は、五島軒本店でフランス料理のフルコースを食べながら、食器の使い方、料理の食べ方などのマナーを学ぶものです。名店の料理を味わうことができ、とても喜んでいました。

写真 3

写真 4

写真 5

写真 3　「いただきます」

写真 4　テーブルセッティング

写真 5　食事風景

◎11 月：春潮寮寮祭

11 月中旬には寮祭が予定されていました。しかし、北海道のコロナウィルス感染が拡大してきたため、11 月 17 日からオンライン授業に切り替わり、11 月 20 日に閉寮、12 月 4 日に開寮となったため、延期し、追い出しコンパと同時開催することになりました。

◎12 月：オンラインビンゴ大会

寮祭は延期となったため、用意していた景品を賭けてオンラインビンゴ大会が開催されました。寮祭と比べると小さなイベントですが、たいへん盛り上がりました。

対面で行事を行えない中であっても、どうにか工夫していろいろと挑戦してきました。状況がよくなり、楽しい寮生活が早く戻ることを祈っております。

(記：寮務主事補　社会基盤工学科　准教授　佐々木 恵一)

国際寮通信

国際寮(International House)では外国人留学生と４年生以上の日本人学生がシェアハウスのような居住スペース(ユニットと呼ばれている)に５、６人が寝食を共にしながら共同生活を送っています。いったいどんな暮らしをしているのでしょうか。３人の国際寮生に語ってもらいました。

It has been almost a year since I joined the International House (IH). To me, joining IH was like joining to a new community. Staying in the dorm is meant to make good friends and the structure of IH exactly provides that to us. The conversation never dries up when we babble on cultural topics. IH makes me realize about myself more and help me to strike up conversations with more people including Japanese students. Internship members from Morocco and Singapore also brought a ton of excitement to IH members. In global café, I was overwhelmed by the beauty of Morocco. The more I live with the people from different countries, the more I understand different cultures. I am delighted how IH has brought such a community to me. （メリー：ミャンマー出身）

私は、国際寮に住むまで留学生と関わる機会がほとんどなく、国際的な壁を感じていましたが、共同生活をする中で壁がなくなり、積極的に交流したいと思うようになりました。ユニット内では、テスト期間にユニットの共有スペースで何人かで勉強したり、お話をしたり、充実した生活を送っています。モロッコからの短期留学生との思い出で、コンビニの会計時に店員に「またね!」と２か月くらい言っていたというのが面白く、お別れの際にも「またね!」と言いました。将来モロッコに旅行しに行こうと思います。Global Café などのイベントとは別に、女子寮生同士での交流の場もあり、映画を見ながらピザパーティーをしたり、カードゲームをしたりするのが楽しいです!（廣瀬光琉：日本出身）

My life in International House (IH) is such a blast. I'm blessed by everyone here because they are all very friendly and kind. I like the way that IH is designed to make sure that we live together as a unit. Living in a unit with Japanese students is a great opportunity for me. First, I can practice my Japanese by talking with them. They are very helpful especially about stuff in the dorm when I first came in. This year, there were 2 internship students from Singapore that stayed in IH. Although it was only 2 months, we had a lot of fun. The best thing that happened was when we made a snowman and watched the world cup soccer together. I really hope when this pandemic is all over, IH will have more activities to strengthen the IH family.
（イルファン：マレーシア出身）

皆それぞれ異文化体験と交流をしながら日々成長しているようで頼もしいですね。さて、令和５年度前期はフランスから３名と台湾から２名のインターンシップ学生が来る予定です。多国籍の学生が集うグローバルエンジニア養成の寮となり、今後が楽しみです！

(記：国際寮部会長　一般系　教授　臼田 悦之)

卒業予定者の進路先について

令和５年１月 20 日現在

生産システム			物質環境	社会基盤
機械	電気電子	情報		
キリンビール(株) / 日糧製パン(株) / 藤森工業（株） / 成田空港給油施設（株） / ニプロ（株） / 日東電工（株） / 昭和電工（株） / （株） 荏原製作所 / （株）日本製鋼所 / 日立建機日本（株） / 日新電子工業(株)八王子工場 / キヤノン（株） / （株）メデック / （株）ニコン / ダイキン工業（株） / （株） タマディック / （株）SUBARU / SUBARUテクノ（株） / （株）日産オートモーティブテクノロジー / JALエンジニアリング（株） / 北海道電力（株） / 北海道ガス（株） / 東京ガス（株） / 東京水道（株） / 東京都下水道サービス（株） / （株）エスイーシー / アイシン・ソフトウェア（株） / （株）TBSアクト / 北海道旅客鉄道（株） / ネクスコ・エンジニアリング北海道	東罐興業（株）/ENEOS（株）/シンセメック（株）/キャノンメディカルシステムズ（株）/向洋電機（株）/北海道電力（株）/電源開発（株） (J-Power)/東京電力ホールディングス（株）/東京ガス（株）/東京水道（株）/東京都下水道サービス（株）/（株）TBSアクト	（株）鷺宮製作所/（株）メデック/（株）ニコン/（株）トータルデザインサービス/アイシン・ソフトウェア（株）/（株）メンバーズ/NTT東日本-北海道/キーウェアソリューションズ（株）/（株）つうけん/（株）インテリジェントウエイブ/サンリツオートメイション（株）/テコム（株）/（株）OEC/（株）ソルクシーズ/函館市役所	キリンビール（株）/（株） 北海道加ト吉/浜理PFST（株） 千歳工場/日東電工（株）/日本ゼオン（株） 川崎工場/（株） カネカ/富士フィルムワコーケミカル（株）/東邦化学工業（株） 千葉工場/（株）三井化学分析センター/DIC（株）/三菱ガス化学（株）	大日本土木（株）/飛島建設（株）/東日本コンクリート（株）/明治コンサルタント（株）東京事業所/（株）不動テトラ/（株）ピーエス三菱/（株）東鵬開発/西松建設（株）/（株）J-POWERハイテック/三井共同建設コンサルタント（株）/あおみ建設（株）/新太平洋建設（株）/日特建設（株）/（株）ズコーシャ/ハ千代エンジニヤリング（株）/三菱地所コミュニティ（株）/東日本高速道路（株）/日本データサービス（株）/鹿島クレス（株）/北海道庁/国土交通省北海道開発局
函館高専専攻科/北海道大学/室蘭工業大学/弘前大学/秋田大学/電機通信大学/金沢工業大学/豊橋技術科学大学	函館高専専攻科/室蘭工業大学/はこだて未来大学/長岡技術科学大学/豊橋技術科学大学/九州大学	函館高専専攻科/室蘭工業大学/千歳科学技術大学/はこだて未来大学/豊橋技術科学大学	函館高専専攻科/弘前大学/岩手大学/東京農工大学/東京工業大学/長岡技術科学大学/豊橋技術科学大学/岡山大学	函館高専専攻科/室蘭工業大学/長岡技術科学大学/豊橋技術科学大学/愛知教育大学/山口大学

株式会社は(株)と表記しております。

修了予定者の進路先について

令和５年１月 20 日現在

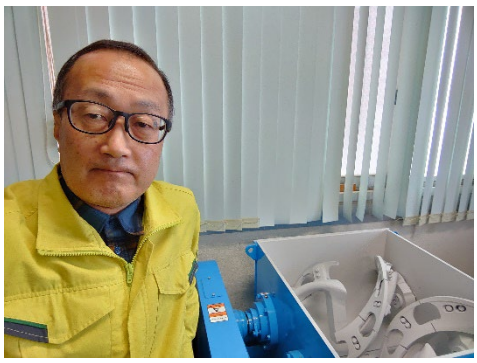
生産システム工学専攻	物質環境工学専攻	社会基盤工学専攻
出光興産（株）/（株）ニコン/（株）ビーネックスソリューションズ/ミネベアミツミ（株）/セイコーエプソン（株）/サンリツオートメイション（株）/三菱電機エンジニアリング（株）/電制コムテック（株）/（株）ダイナックス/藤村電器（株）/アイ・システム（株）/アマゾンジャパン（株）/三菱地所プロパティマネジメント（株）	日東電工（株）/大日精化工業（株）/田中貴金属工業（株）/星光PMC（株）	（株）北未来技研
北海道大学大学院		横浜国立大学大学院

株式会社は(株)と表記しております。

退職される先生から

『コンクリートマン』

社会基盤工学科 教授 澤村 秀治



1999 年 4 月に函館高専に採用していただいてから、あれこれしているうちに、あっという間に退職の年を迎えることになりました。24 年の在任期間にわたって、私のような者を、様々な場面で用いてくださったことに心より感謝申し上げます。

私を採用していただいた時の公募内容は、コンクリートの専門家を求めるというものでした。私は函館高専卒業後に進学した長岡技大では大学院までコンクリート漬けの生活をし、その後勤務したゼネコンでは、技術部や研究所でレインボウブリッジを始めとした全国の建設現場を相手にして、コンクリートに関する技術支援業務を行ってきました。豊富な実務経験でコンクリートマンのつもりでしたが、立派な研究業績などは無く、教育経験はゼロの私を呼んでいただいたのは、その時の先生方のご英断？だったのでしょうか。

こんな経緯で函館高専に勤務することになり、さて自分は何者か？と考えたときに、教育者、研究者である以前に自分は技術者であるということを強く意識しました。それ以来、学生たちには技術者として接してきたつもりです。技術者として学生たちに伝えたいと思ったのは、①仕事の厳しさとブレない方針、②仕事全体をコントロールするバランス感覚、③仕事をスマートにこなすカッコよさ、だったと思います。③については、「最小限の労力で最大限の成果を出すのだ」とよく話したものです。このような私のスタイルは、学生たちにはどのように映ったのでしょうか。

一方で私は、学校ではコンクリート関係の授業や実験実習、研究などを全て担当していたので、学生たちにとって私はやはりコンクリートマンだったと思います。それはそれで第一人者という感じがして良かったですね。北海道内では、室蘭工大より南西側のコンクリート研究者は私だけでしたので、コンクリートマンとして各方面から声をかけていただき、官公庁などの各種委員会・審議会、さまざまな学会活動に参加する機会をいただきました。学校の外でもよい仕事ができ、お役に立てたのではないかと感謝しております。

学校の設備についても今思うと 24 年前、私が函館高専に着任した当時のコンクリート実験室の設備は骨董品ばかりで、教育や研究に使えそうな物はほとんどありませんでした。その後、校舎改修を経て、科研費や企業様からの寄付金によって、現在の実験室はそこそこ充実し、外部からのリクエストにも応えられる機能を持つ実験室になったと思います。

それなりの存在感を持っていたと勝手に思っているコンクリートマンは、この節目で函館高専を去ります。私が掲げていた函館高専の「コンクリートの灯」は、更に強力なコンクリートマンが現れ、大きなかがり火にしてくれたらいいなあ、と願っています。

新任職員の紹介

氏名：金澤　香織
①転入年月日：令和５年１月１日
②所属・職名：総務課経理係　一般職員
③趣味：楽器演奏（クラリネット）、漫画を読む
④抱負など

このたび、学生寮の事務補佐員から職員として採用となりました。今までよりも様々な視点で沢山の仕事を学ばなくてはと感じ、緊張の日々ですが、その中でも自分にとっての「普通」の感覚を大切にしていきたいと思います。

社会人としての知識や経験があることが当然の年齢ですので、扱いづらい新任職員だろうな、と自分のことながら思います。ですが、函館高専においては初めての経験ばかりですので、新卒と同じように厳しくご指導いただければ幸いです。

皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

フォトアルバム～第5学年の皆さん（卒業研究発表会にて）～

函館高専地域連携協力会から

企業名：アークジョイン株式会社

① 設立年月日：昭和 61 年 7 月
② 代表者氏名：齋藤 敏浩
③ 企業紹介

函館高専地域連携協力会は函館高専 OB を中心に結成され、会員企業による合同企業説明会や各種イベント支援を通じて、学生の皆さんと学校の応援団として活動しております。
同窓会の「学校だより」紙面をお借りしまして、協力会の会員企業や取り組みを紹介しておりますが、今回はアークジョイン株式会社の浅野（電気工学科第 10 期）が担当させて頂きます。

まずは簡単に会社の紹介ですが、弊社は昭和 31 年に個人で創業後、昭和 61 年に「溝口事業（株）」として設立登記され、主に機器設置・通運事業などをしておりました。平成 18 年「みぞぐち事業」に社名変更後は、新たに加えられたコンクリート構造物（橋梁やトンネルなど）の調査・診断及び補修工事事業等公共工事を中心に急成長し、平成 26 年には「北海道元気カンパニー」として選ばれております。
平成 31 年 1 月に東亜グラウト工業（株）と事業提携し、令和３年５月から社名を現在の「アークジョイン株式会社」として斜面防災事業なども加え再出発した「元気カンパニー」です。
インフラメンテナンスがクローズアップされる中、構造物・機器類の維持・補修の必要性が高まり、当社の事業の社会的重要性も同様に高まっているものと確信しております。現場・現実・現物の「三現主義」に基づいて技術力を高め、持続可能な社会構築に貢献できるよう日々努力を傾けております。
設立以降、函館高専出身者を中心に経営しており齋藤代表取締役社長（土木工学科第 17 期）ほか８名の函館高専出身者が現在活躍しております。是非とも当社の幹部候補生として学生の皆様をお迎えしたいと考えておりますので、宜しくお願い致します。

さて、せっかくの機会ですのでもうひとつだけ、お話しさせてください。
函館高専に入学して今でも印象に残っているのが、「君たちは生徒ではなく学生である」と最初に言われた言葉です。当時はあまりピンとは来なかった言葉ですが、今は次のように勝手に解釈しているところです。
「生徒」の場合は先生から教えられたことや言われた課題をいわば「他人事」として捉えることが多いと思います。しかし「学生」の場合は、その課題を自らの課題として主体的に捉え、「自分の問題」として解決しようと努力するのが「生徒」とは違うところではないかと。
どこの会社においても言えることと思いますが、会社としての課題をいかに「自分の課題」として捉えることが出来るかどうかによって、その人の課題解決へのモチベーション（動機付け）や取り組み方ひいてはその成果が大きく違って来るものと思います。
また、すでに高専ロボコン大会などで経験されている方もおられると思いますが、函館高専で学ぶ皆様も様々な課題を「自分の課題」として取り組むことにより、課題解決に向けた情熱・モチベーションが生まれ、その努力が実を結んだ成果によって得られる喜びもまた大きなものとなるに違いありません。
是非とも、そういった「主体的に課題を捉える」考え方を「学生」時代に培って頂くよう願います。

取り留めのない文章になってしまいましたが、この辺にしたいと思います。

学校だより　第 215 号
発行　函館工業高等専門学校広報委員会
〒042-8501　函館市戸倉町 14 番 1 号
TEL：0138-59-6491　FAX：0138-59-6330